

女性の理解レベルを肌感覚でつかむ

こうしたことからも、着工前に施主と竣工イメージを合わせておくことが必須となってくるはずですよ。

イメージを合わせるためには、まず空間把握が苦手な女性の立体イメージの理解レベルを「肌感覚」で把握することを強くおススメします。

でも自分が既にわかることを、相手がどの程度わからないか知ることには難しい。ましてや人の頭の中にあるイメージがどれだけの精度かなんて、正確に知るすべはないですものね。

サンプルを集める

だからできるだけ多くの女性に、どの程度イメージできるのか聞いてみることをすすめます。それをつかむことがおもてなしの第一歩です。

自分の普段している説明、プレゼンでどれだけ竣工した時のイメージがつかめているのか。

女性の理解レベルをつかむための施策

自社のプレゼンで着工した時のイメージがつかめているかを次のポイントについて、なるべく具体的に調べる

- ・ 対象物の大きさ
- ・ 空間に占める割合
- ・ 動きに関するイメージ
- ・ 配置に関するイメージ

人によって個人差があるのでなるべくたくさんの女性から意見を聞き、傾向を肌感覚でつかむことが大事

同時にどのように表現したらわかりやすいかも聞く

対象物の大きさ、空間に占める割合、動き、配置、これら「空間能力」を必要とする項目のうち、どれが苦手なのか。

女性でも色んな人がいますので、ある人は奥行きをイメージしにくいかもしれませんが、またあ

る人は幅をイメージしにくいかもしれません。

特に身近にいる女性には何がイメージしにくく、またそれをどう表現したらイメージしやすくなるのかたくさん聞いておきましょう。

臨床実験のようにたくさんサンプルを集め、対応策を自分なりに見出しておくのです。

イメージを助ける

理解度を把握した上で、その女性を相手にどのように説明したらイメージの食い違いが少なく、お互いに安心して着工できるようになるでしょうか？それはつくり手が事前にできるだけイメージ作りを助けることでしかありません。

同じ間取りの家をくまなく見せられれば、そのままズバリでわかるでしょうが、全く同じ間取りの家も少ないですよ。

その場合は部分的でもいいので、似たような空間を持つOB施主様のお宅を見せてあげてください。できれば映像でもいいです。

どれだけ写真で綺麗にまとめたプレゼンボードを見せられても2次元から3次元のイメージを頭の中で起こすことが女性には難しいので、始めから3次元イメージを見せてあげてください。

映像で高さ・広がり・幅がわかるように撮影してあげたものを見せるとわかりやすいです。

今はデジタルビデオカメラも安く、媒体であるDVDにコピーするのもパソコンで簡単にできますから、それを活用して映像で見せてあげる工夫などが必要です。